

会 議 録

会議名 (付属機関等名)		第18回(平成30年度第2回)キセラ川西エコまち協議会	
事務局(担当課)		土木部 キセラ川西推進課	
開催日時		平成31年3月20日(水) 10時40分 ~ 12時10分	
開催場所		キセラ川西プラザ 文化棟 大会議室	
出席者	委員	加藤、山中、松村、武田、牧田、加美田、松塚、大西、大石(代理)、中垣、畑中、阪上、五島、北野(敬称略)	
	その他	(オブザーバー)森田(代理)、大平、福澤(敬称略)	
	事務局	宮定、寺田、古山、池永、名嘉眞 絹原、中川、西本、小倉(調査機関)	
傍聴の可否		可	傍聴者数
傍聴不可・一部不可の場合は、その理由		0人	
会議次第		1 開会あいさつ 2 報告(前回からの動き) <ul style="list-style-type: none"> ・ 建築行為等の手続条例運用状況(資料1-1) ・ エコまち建築賞について(資料1-2) ・ 交通部会について(資料1-3) ・ みどり部会について(資料1-4) ・ 市民ワークショップについて(資料1-5) ・ 環境学習・普及啓発について(資料1-6) ・ キセラ川西エコまち計画におけるモニタリングについて <ul style="list-style-type: none"> - 1 建築分野におけるエネルギーモニタリング(資料1-7) - 2 みどり分野におけるまちの緑化モニタリング(資料1-8) 3 議事 <ul style="list-style-type: none"> まちのPRについて(資料2-1) 4 今後の予定	
会議結果		別紙審議経過のとおり	

審議経過

<開会>

1. 開会あいさつ

(土木部 部長あいさつ)

- ・おはようございます。ようやく現場を見ていただいたが、いかがでしたでしょうか。エコまち協議会では建物の低炭素化を進めているが、現場では公共施設は公園を中心に整備してきた。以前は公共が整備し、問題が起こったときは公共の責任となることが通常であったが、整備する際も市民参加で実施し、意見によって設計を変更していくという方法でようやく完成した。これまでは完成したら終わりだったが、完成してからスタートということで、使っていく中で、市民が成長させていくというコンセプトで、いわば「サードプレイス」を作っていくプレイスメイキングの取り組みではないかと、試行錯誤的に進めているところである。
- ・前回の協議会開催後に市長が変わった。就任後数カ月たったが、キセラ川西の取り組みも十分にご理解いただいております、これまでと変わらずしっかり進めていきたい。
- ・キセラ川西はモニタリングのフェーズに入ってきており、見える化が出来、しっかりと低炭素化が実現できている。区域も狭いので大きなことはできないが、「こういう風にすれば一定の効果が得られる」という結果になっている。関係者の皆さんに支えられながら進めている。また、兵庫県の人間サイズのまちづくり賞の奨励賞をいただいた。これも励みにしていきたい。
- ・キセラ川西プラザがオープンし、公園にキセラ丸という管理棟も4月1日からオープンする。民間の大規模集客施設が今年の8月をめどにオープンすると聞いている。さらに2020年には市民病院が移転してくる予定。まちもいよいよ成熟を迎える段階。周辺整備では絹延駅に向かう豊川橋山手線の都市計画道路拡幅事業（踏切付近の改良）を推進しているが、施設オープンには間に合わないものの、前倒しにしていく提案を能勢電鉄さんからいただいている。また、交通部会では周辺のサイン計画も検討しているところである。
- ・皆さんには大変お世話になっており、なんとか試行錯誤しながら進んできている。これからどうしていくかも重要であり、引き続き協議会の皆様にはよろしくお願ひしたい。

2. 前回からの動き

事務局

- ・資料説明
 - ・建築行為等の手続条例運用状況：資料 1-1
 - ・エコまち建築賞について：資料 1-2
 - ・交通部会 ダイジェスト版：資料 1-3
 - ・公園の利活用の状況について：資料 1-4
 - ・市民ワークショップについて：資料 1-5
 - ・環境学習・普及啓発について：資料 1-6
 - ・建築分野におけるエネルギーモニタリング：資料 1-7
 - ・みどり分野におけるまちの緑化モニタリング：資料 1-8

会長

- ・パークオフィスキセラ丸の施設の位置づけは、都市公園法上便益施設となるのか。どういう位置

づけになっているのか。

- ・将来的に金を稼げる公園にしていくという方向性が広がりつつあり、大阪の都心では大規模なカフェを誘致し家賃を取る取り組みも見られる。
- ・通常、このような施設をつくると、屋根に太陽光発電施設は載せると思うが、載らなかった理由を教えていただきたい。

事務局

- ・太陽光パネルについては、コスト面で実現できなかった。当初から契約金額としてワークショップと建築費用の合計になっている。意見を反映する中で、予算いっぱいでの建物が実現した。

会長

- ・施工面積はいくらか。

事務局

- ・内部空間は約 80 m²、ひさしの下なども含めた建築基準法上の延床面積は約 120 m²である。

会長

- ・設備があまりついていない中で、立派な施設だという印象である。

事務局

- ・施設の用途からすると便益施設になる。

会長

- ・便益施設であると、火も可能だと思うが、そうした設備も入っていないのではないかと。
- ・パーティーやBBQなどもされることが想定されるが、トイレがなく、ガスなどもない。持ち込むことなども可能なのか。

事務局

- ・利用の運用については、これからである。将来的には、市民の手に渡していきたいという思いがあるため、市民の皆さんと考えながら進めたい。

会長

- ・そうだと思うが、どこまで制約を外していこうとするつもりかを聞いている。

事務局

- ・可能な限り自由に使える空間にはしたいと思っている。

会長

- ・では、なぜガスを引いていないのか。施工費に対してもったいないという気がした。

事務局

- ・当初、ガスの話はあったが、電気ケトルなどで対応できるということでコンセント対応になった。

委員

- ・明日、お披露目会をする予定である。運営の中身は聞いていないが、常駐スタッフはいるのか。

事務局

- ・午前1時間、午後1時間職員がいる状態からスタートする。活発に運用されるようになれば、その時間も長くなると思う。

オブザーバー

- ・エネルギーモニタリングについて、アンケート回収が問題になっているということだった。
- ・企業体であればCSRの観点も重視され、企業の方針に書かれているところもある。ここでの取り組みが先進的なエネルギー削減の取り組みであることをアピールできるような表彰を市が出してあげることや、優良事例として取り上げるなどのインセンティブを持たせることはできないのか。粗品をもらったところで嬉しいとは思わないので、上手くモチベーションを上げる方法を検討されてはどうか。そうするとまちのコンセプトも伝わりやすいと思う。
- ・年間ごとにそれぞれの企業で工夫された取り組みも聞いて、発信することも効果的だと思う。

副会長

- ・とても良いご提案。運用面で頑張ったことについて表彰することも考えてはどうかと思う。

オブザーバー

- ・削減量について、顕彰または優良事例として取り上げてあげた方がよい。お金をあまりかけずにできる取り組みでもある。

会長

- ・PFI事業者の方々へのご提案だとも思う。仕組みとしてつくって、モチベーションをどう上げていくのかというご指摘はよくわかる。

オブザーバー

- ・対個人は、個人情報のあることががあるので難しいが、大きな企業の建物がどういう努力をしたのか、またそれらの企業はCSRの目標も持っているので、そこと連動させてはどうか。
- ・市としても新しい取り組みとして実施して、さらに、削減率を達成したということを出すと市民にもわかりやすい。やり方については議論していただければと思うが、努力した部分を褒める取り組みを考えないと、アンケートは義務的なものになり形骸化するだろう。

会長

- ・企業は良いと思う。SDGsの世界でも、環境を意識した取り組みをPRすると投資が集まりやすいという話もある。企業にとっても抵抗はないと思う。

オブザーバー

- ・数値でこれだけ減りました、と報告しても市民はわかりづらい。

会長

- ・企業が「キセラ川西でこれだけやりました」ということを発信するなどのPRを検討してはどうか。

委員

- ・市民ワークショップの資料で「公園除草マップ」「雑草一覧」とあるが、生物多様性への配慮も求められる中で、「雑草」という言葉はあまり使わないし、教育上も良くないのではないかと思う。
- ・掲載されている雑草の種が外来種ばかりでもないで、武田先生からも助言頂きながら、検討されてはどうか。

会長

- ・雑草という言葉について、「雑木林」という言葉もあるので、いい印象を持っていたが、雑草という言葉は悪いイメージがあるのか。

委員

- ・「雑草」という単独で使われているとよいかもしいないが、「除草」という言葉とセットで使うと「除草するもの」という誤解を与えてしまう。

3. 議事

まちのPRについて

○事務局

- ・資料説明

まちのPRについて：資料2-1

委員

- ・まちのPRの「まち」とは一体誰か。
- ・例えば、今後、商業施設ができる。その施設の事業者もまちの構成者である。行政の公園をPRするのはやりやすいと思うが、まちは公園だけではない。事業者も魅力を感じてここに開設されるわけであり、植栽計画も持っていらっしゃる。そういう取り組みについてもPRの範疇に入ってくると思う。
- ・質問の主旨としては、そうした仲間を作っても良いのではないか、ということ。ワークショップの市民だけでなく、立地されている企業さんのネットワークもできるとよい。単に、エネルギー量の削減だけでなく、みどりは目に見えるので、みんながつながっているような感覚でキセラをとらえて、PRした方がよい。

事務局

- ・人と人や企業などのネットワークの構築は力を取り組んでいる。ご意見を取り入れながら実施していきたい。

会長

- ・大変なことだと思う。企業誘致や人を呼んでくることをPRする時代であるが、知恵を働かせないとなかなか成功しない。企画案は、川西市がこんなことをやってえらいたろうということにうつらないようにしないと危惧している。行ってみようという機運を誘発しないと難しい。

委員

- ・デザインコードを決めているわけではない中で、いろんな方がいろんな形でやっているの、その良さを出していくためには、つながりを持ってやっていることを前面に出した方が、キセラ川西の売りになるのではないかと。

会長

- ・最近のマンション広告が変わっている。どんな人が住んで、どんな趣味を持っているか、どんな人が利用者かということで顧客を設定している。要は、まちを売るということは人を売るということである。

委員

- ・紹介する施設について、民間施設はどこまで紹介するのか。何か線引きはあるのか。

事務局

- ・まだ、具体的には検討していない。

委員

- ・弊社がやっているハイキングイベントなども紹介できればと思う。

オブザーバー

- ・キセラ川西を一言でいうと何か。
- ・小学校の高学年でもわかって、書いてあることは行政がやっていることというのは難しい。低炭素のまちづくりと言っているが、上位概念があって、説明する2行があって、具体的に建物、生物多様性、市民参加という取り組みがあるという理解をしているが、それくらいのボリュームの方が分かりやすいのではないかと。
- ・年表はマニア向けではないかと。
- ・さきほど個人にはインセンティブは出しにくいといったが、市民によって支えられているという誇りはインセンティブになる。地区の憲章など概念的なものを打ち出して誇りを持たせることができるようになればと思う。

委員

- ・行政としてもある意味稀なことをやっているの、プロ筋向けのドキュメントが押さえられてい

るものがあるとよい。そうしたPRはプロが担当している。

- ・一方で、一般市民向けがあってもよいと思う。これらは、一緒にはできないと思うので、分けた方がよいかもしれない。一発のものでなく連続的、継続的に発信していくことも重要である。

オブザーバー

- ・高学年以上が分かるもので、ツール=PRとなっているが、核となるものを短く伝えるものが必要かと思う。
- ・キセラ川西プラザについてパンフレットに低炭素型複合施設とあるが、キセラ川西はどんな場所かということを短く伝えることが出来た方がよい。

会長

- ・つくることには異議がなく、だれに向かってPRするのかということを決めると戦略が決まるのではないか。というご意見であった。
- ・事業の報告書ではなく、知らない人へ訴求する未来に向けてのPRであるという趣旨を作られてはということであった。

副会長

- ・ターゲットが関心のない人たちとなっているので、検定をやらせてもらおうとしても取り組んでもらえない。企業とタイアップし何かもらえるとか、やる気のあるものがあったらよいと思う。

会長

- ・大阪市の検定は称号を与えている。そういうご主旨かと思う。

副会長

- ・まちの方々に来ていただけるということであれば企業の方もご協力いただけるのではないかと。

事務局

- ・エリアマネジメントの取り組みも進めている。貴重なご意見をいただいたので、今後、検討していきたい。

委員

- ・研究の一環で、松山の中心市街地で謎解きを作った。それに参加いただくことで、まちの印象は変わった。こういうものはきちんと作った方がよい。今、謎解き、街歩きがはやっている。「これは何でしょう」というのはやめた方がよい。
- ・2100年くらいのロングスパンのことを描けるのが、このまちの特徴である。パンフレットとは別の話かもしれないが、ロングスパンで公園についても考えることが出来るのではないかと。

会長

- ・PRを一過性のパンフレット印刷で終わるケースが多い。継続的に取り組んでいただければと思う。

4. 今後の予定

事務局

- ・来年度のエコまち協議会は2回開催予定であり、改めて連絡したい。

○会長

- ・それでは、特になければ、これで閉会します。ありがとうございました。